



AA日本ニューズレター

No.169

■ AA ガイドライン『コンファレンス・コンベンション』より

下記に示すガイドラインは、さまざまなサービスの分野で活動するAAメンバーの経験からまとめられたものである。ここにはまた、「12の伝統」とAA評議会(アメリカ・カナダ)による指針が反映されている。

コンファレンス(会議)・コンベンション(大会・集会)

— AAメンバーの集まりを楽しめるものにするために

AAの回復のメッセージを効果的に運ぶには—
なぜ、AAコンベンションを？

グループレベルを超えた AA の集まりは、今ではすっかり AA の中でも定着している。「BOX-459(注:GSO 発行のニューズレター)」やグレープバインの「日程表」の項目を開いてみれば、いかに数多くの会議や集会、夕食会などを世界中の AA メンバーが予定しているかが見て取れる。

コンベンションのようなものを開く一つの理由は、それが極めて自然なことだからである。人々が集まってできた会は、およそどこでも時につけ、しばしば時間を取ってその会の発展状況を眺めてみることをするものである。しかしながら、AA の場合、そのような催しなどの単なる慣例的な祝典に比べ、はるかに深い意味合いを持っている。そしてまた、コンベンションは幅広く AA の経験の分かち合いが行える場にもなっているのである。

参加者たちに AA のコンベンションがしっかり受け入れられるには、何が必要なのだろうか？それはたぶん様式とか形式よりも、その背後にあるフィーリングとか精神のようなものだろう。あるメンバーが言っているように、最高の AA コンベンションとは、「最善を尽くし、うまくいっている AA ミーティングを、ちょっと規模を大きくしただけのものである」。熱気に溢れた AA コンベンションで、そこにいる AA メンバーを観察してみれば、彼が意味することがわかるだろう。その雰囲気だけでも、わざわざ出掛けて行く価値がある。そこでは仲間が集い、笑いざざめき、暖かみ、理解が・・・「山と積まれ、凝縮され、駆け巡っている」のが、わかるだろう。

だが、コンベンションを開くには、かなりの準備作業や計画を必要とするし、また進行段階でも円滑に運ばなくてはならない。AAも機が熟している現在、何千もの参加者が集まるコンベンションを開いている州や地方が数多くある。そのためコンベンションは実際のところ、かなりの人と出費を要する大がかりな事業だと言える。そこで、これらのコンベンションをできるだけ実りあるもの、愉快なものにするための提案をまとめてみたのがこのガイドラインである。(中略)

コンベンションプログラムを素晴らしいものにするには

「私たちの友人の一人(AA地方常任理事)が最近話してくれたこ

とで、これは彼の意見だが、実際のところコンベンションで最も重要なのはプログラムそのものではなかったということである。彼は、それに付随した何かを期待している。つまり新しい友人や古い友人と出会う喜び、私たちの共通の善のために、神のもとで共に活動、経験、力、希望をお互いに分かち合っていくことなのである。この喜びのフィーリングがどれほどであるか。コンベンションの成功の度合いは、そのフィーリングの量と正比例するものだと彼は考えている。

参加者が霊的な雰囲気を楽しんでこそ、みんな一致協力していける。しかしながら彼らが続けて言っているように、プログラムが創造性に富むものではなく心を動かされるものでなかった場合、コンベンション会場をあとにする参加者の心には、どうしても失望感が残るだろう。

そのためコンベンション開催に先立ち、慎重な考え、検討が必要になってくる。では、バランスのとれたプログラムには、何を加えたらよいか見ていきたいと思う。(中略)

アノニミティを守る

AAコンベンションに新聞記者の参加がある場合、ミーティングの始めにメンバーのアノニミティを守ってもらうようお願いするのが慣例になっている。

言い方は次のようにしたらいいだろう。

「私たちのアノニミティはソブリエティ同様、私たちにとってかけがえのないものです。ここにいらっしゃる皆さま、特に新聞、放送関係者の方々をお願いしたいのですが、今日この場に居る、あるいはここで名前があがったアルコールクの名前は一切出さないでください。

皆さまがこの集まりの場から、何かを得、役立てて頂けることを願っております。しかしながらAAのメンバーにつきましては、個人名は一切削除して頂きますよう、謹んでお願い申し上げます」(以下、略)

AA ガイドライン『コンファレンス・コンベンション』より抜粋

※ J S O より

AA ガイドライン『コンファレンス・コンベンション』には、その具体的な委員会の構成、進め方等が示されています。ご興味ある方は是非ご購入ください。一部、100円です。

この他、次のガイドラインがあります。合わせてご確認ください。

『広報(150円)』『セントラルオフィス/インターグループオフィス(100円)』『クラブ(100円)』『アルコールリズムの分野で仕事をしているメンバーに(100円)』『地域の専門家協力委員会を設置するために(100円)』『財務(100円)』『治療施設委員会(100円)』『電話応答サービス(50円)』『AAとアランの関係(30円)』『インターネット(100円)』

以降、最近、日本で行われたコンベンションの実行委員会にその経験を投稿していただきましたので、ご参考になさってください。

■各地域より

AA 中四国地域ラウンドアップ in 呉 2014/9/26-28

実行委員長 山地

2014年のラウンドアップを開催するにあたり、2013年8月の中四国地域集会では開催地区が決まらず持ち帰り検討になり、広島地区委員会で引き受ける方向でまとめ、ようやく次回の地域集会で広島に決まり先行き不安なスタートとなりました。実行委員会を立ち上げた当初は実行委員が3人しか集まらず、本当にこれでラウンドアップができるのか不安でしたが、とりあえずできること、やれることからのスタートでした。まずは宿泊場所ということで、以前個人的に利用して、海がきれいなところというイメージの施設である呉市安浦町の「グリーンピアせとうち」が頭に浮かびました。呉は御存じの方は大和ミュージアムやてつのくじら館、海上自衛隊の基地というイメージがあると思いますが、私も呉に住んでいたこともあり、海が大好きな私には本当に好きな土地です。だから参加した仲間はきっと喜んでくれるだろうという思いはありました。実行委員の仲間からもいいねと言われて、早速支配人に約束をとってお会いして、こちらの事情などを話していると、理解のある方ですんなりと了解を得ることができました。支配人とは雑談のなかで趣味のバイクが共通していて、ラウンドアップ以外のことで話が盛り上がり、親近感を感じました。まずは当面の課題である宿泊場所が決まり安心しましたが、最初に感じた不安は心の中に残ったままでした。

広島でのラウンドアップの開催は2007年に宮島で開催して以来のことで、その時は当時の中四国セントラルオフィス所長であった先行く仲間が先頭に立って動かれてきたことを伺っていました。しかし自分にそんなことができるわけではない。でもやるしかないという不安な気持ちだったことは事実でした。そして実行委員会を開催する中で、四国から仲間が実行委員として参加してくれて、自分達だけでやろうとしていたことが間違っていることに気付かされました。そしてみんなでラウンドアップをやっていくことの大切さを感じて、ようやく本来の目的を確認することができました。さらに私をよく知る仲間から「足でまわらないと、誰もついてきてくれんよ。」と一言があり、その仲間と一緒に、時に一人でミーティング会場をまわり、ラウンドアップのお知らせと実行委員会の参加をお願いしました。参加してくれる仲間も増えて、実行委員会も終盤に近付くとこれじゃあ間に合わんかもと実行委員会を月2回に増やしましたが、その代わりに諸事情で参加できなくなる仲間もあり、少人数で役割を抱えていました。しかし実行委員会では忙しい中、仲間が動いてくれて、自分も仲間

から見えない力をもらい、なんとか少人数ながらも開催にこぎつけました。自分も実行委員会で会った仲間やメールで相談に乗ってくれた県外の仲間、本当に仲間の力を借りて動くことができました。

開催期間中の3日間で関係者を含めて106名に参加していただきました。こちらの不手際で思っていたプログラムとは違う形になることなどいろいろ反省点も残りました。しかし参加してくれた仲間から帰り際に「ラウンドアップよかったよ。」と声をかけてもらったことでうれしい気持ちになり、そして実行委員、広島地区の仲間、参加してくれた仲間とともにやり遂げて、ひとつになったことが本当にラウンドアップをやってきてよかったと感謝できました。実行委員会では本当に苦しかったこと、大変だったことの連続でしたが、仲間と一緒に動いて、実行委員のみんなとやってこられたことや参加してくれた仲間の気持ちを思うと、また機会があればと感じられて、ラウンドアップを通じて自分自身変わってきたな思っています。実行委員長をさせてもらい、先行く仲間が残してくれた足跡を歩くことができたかな、少しでも近づけたかなとお世話になった先行く仲間を感じることができました。そしてテーマである「仲間がおるけん飲まんてええんヨ！」も本当に仲間のおかげだなと感じて、ラウンドアップが終わってもこのつながりは残していこうと感謝しています。ありがとうございました。

第6回全国矯正・保護施設フォーラム(九州沖縄)を終えて 2014/10/3-4

実行委員長 マモル

平成26年3月2日、第一回目の実行委員会のスタートを切った。おおよそ月に一回実行委員会を開き、ついに平成26年10月3日・4日その日が訪れた。

1日目は、矯正施設、更生保護施設、保護司会、病院、マスコミ、などの関係者が74名、AAメンバー73名。合計147名。2日目はAAメンバー56名、関係者3名と、沢山の人が会場を訪れてくれた。普段AAメンバーは、割とラフな格好でイベント会場に訪れる事が多いのだが、この日ばかりは、外部の矯正施設や保護施設の方、多くの関係者が来られるとの事で、いっなくなっ清楚な服装でいささか緊張気味で会場に集まってきた。会場は250名ほど入るホール。AAメンバーが続々と会場を訪れる。少し緊張感のあるAAメンバーの表情を見て私はなんだか頼もしく思った。

午前中はAAの説明を皮切りに、AAと矯正の関わり、矯正施設へのAAの取組みの現状報告、それから、矯正施設入所経験者によるAAメンバーの回復の体験談などを行った。午後からのシンポジウムでは、「矯正保護メッセージの新たな可能性」をテーマに、福岡・沖縄の矯正施設の方、更生保護施設の方、弁護士の方、保護観察所の方、そんな外部の方々を中心にお話を頂いた。AAと社会との関係を会場の皆様にも再度見つめ直し頂き、なおかつ外部の方々にもAAの活用方法などを考えていただいた。考えさせられる事も多く、とても意義のある時間になったのではないかなと思う。

8年前のニューズレターに書いてあった文章です。僕はこれがとても気に入ったので引用させていただきます。

私たちは、一人ひとりがAAによって、AAが存在するから救われた、という経験の持ち主です。それを伝えていくのがメッセージであり、そのメッセージを効果的に伝えていく環境をどのように整えていくか、というのがサービスでしょう。

117号「第6回AA日本サービスフォーラムを終えて」より

このフォーラムが、その“環境を整える”ためのほんの始まりになればと願ってやみません。実行委員長とは名ばかりで、周りの仲間達の情熱に押されて活動していた感じでありました。実行委員長である私の至らない点は沢山あったと思います。自分で気づいた点がいっつかあります。ご指摘された点もいっつかありました。しかし、このフォーラムを終えて私は、何か大きな物を頂いたような気がする。最後まで企画に携わってくれた愛すべき仲間達、沢山のアドバイスを頂いたAAの良き友人達。協力してくださった関係者の方々、関心を持って当日来ていただいた沢山の皆様。この場をかりて、あらためてお礼を言いたい。本当にどうもありがとうございました。

AZYPAA(アジア地区ヤングRU) 2014/10/10-12

実行委員 KYOKO

アジアに実行委員としての参加は、今年で2回目だった。本当に正直に書かせてもらおうと、アジアとの経験は出会いからして「ドタバタ」というのが一番しっくりくるような気がする。

それというも、私が日本での『ワイパ・ムーブメント』(とでも言おうか？ワイパとは、ヤング・ピープル・イン・AA:つまりはAAにいる若い人、という意味の略語)について知ることになった由来が、アメリカで行われている、アジアの元となったイキパ(ICYPAA)というヤングの国際コンベンションでのことだ。なぜか2013年のイキパでの国際コンベンションのパネリストとして私が知らないところで立候補されており、私に連絡がこないままイベント当日になり、急遽イキパ参加のため来米していた当時のアジア実行委員メンバーが代役を頼まれ、そこから事後私に繋がった「ドタバタ」事件がきっかけだったのだ。はっきり言って、不安だった。

しかしその後、日本のAAともっとしっかり繋がりたいがため、2013年アジアは途中から実行委員としてお手伝いさせてもらうことになり、今年是最初から参加させてもらうに至ったのである。

各々がよく知っているように、私たちアルコールは「自己規制力をあまり持たない」。伝統をしっかり守られなければいけないのも、そのためである。我々はAAや役割を通して普段の生活の中ではきつと交わることのなかった仲間たちと関わる機会がもらえる事実はAAの大きな恵みの一つだが、コンベンションのような一つの目標がある程度の人数が集まって達成しようということなら、アルコールでなくとも当然意見の違いやぶつかり合いが出てこようものの、AAの仲間となると...想像できるであろう。しかしここでの恵みは、先にも言ったように伝統なのである。実行委員の中には以前にもアジアで活躍した仲間や、2桁の飲まない期間を持つ仲間などもおり、伝統に沿って行えているかの照らし合わせがなされる。ステップをフルに使い、共同体となって「全体の福利を優先し」、「グループの良心」を尊重し、なにより「メッセージを運ぶ」という我々を超えた大いなる目的に目を添え、愛を持ち、お互いに不満も、意見も、そして

励ましも交換し合える場が与えられるというのは本当に大きな恵みであった。

私が最初にヤングのコンベンションをアメリカで体験した時、ソプラエティー・カウントダウンや何千人も一緒になった円を描き唱える平安の祈りに感動し、「希望」というモノを、観念としてだけではなく体験としてビリビリと感じ、涙したのを覚えている。

まるで山登りのように、登っている最中幾度となく「あー、なんでこんな微妙に自虐的な事やることにしちゃったんだろう...辛い！面倒臭い！」と思う。実行委員ばかり。しかし、登頂して、ご来光を眺め、自分の小ささと光の温かさを感じると「ああ、辛くても一歩一歩進んできてよかった。このパーティー(チーム)と来てよかった。次はどこへ行くか。」と感謝、そして更に先へと進むワクワクしか浮かばないのだ。

仲間と共に、ドタバタと成長する事もアジアに実行委員として参加させてもらった大きな恵みであったことは間違いないが、なにより成長の成果として、日本のまだ「ワイパ」が浸透していない仲間、ニューカマー、最近AAに対してマンネリな気持ちの仲間など、様々な仲間に、私があの大きな部屋に立って何千人という仲間とエネルギーを分かち合った際の感動の一部でも手渡せているかもしれない、という希望を私たちは受け取ったのだ。

だからこそ私はきっと来年も、再来年も、引越してもその国でワイパとの関わりを続けるのだろう。「あーあ」とかぼやきながら、失敗もしながら、そしてたくさんの恵みを貰いながら。

AA 福島地区 20 周年記念東北ラウンドアップ by 猪苗代湖 2014/10/18-19

実行委員 とおる

約1年半の時間を懸けて、10数回の実行委員会を行い、当日を迎えることができました。参加下さった皆様、本当にありがとうございました。

福島県の真真中に位置する、猪苗代湖畔のレイクサイド磐光にて開催しました。今回のRUも前回同様に、地区委員会の中で決議されて始まりました。実行委員会が立ち上がり、多くの仲間が参加してスタートしました。

正直、問題は起こることなく、終わるだろうなど当時は思っていました。自分の役割をこなしていけば、無事に済むと思っていました。ですが、私の神様はそうはしませんでした。突然の実行委員長就任、空いている役割、残りの課題、目の前が真っ暗になりました。正直、中止することも頭をよぎりました。

神様、そう来ますか、来ちゃいますか？今ですか？と問いかげながら、ホームグループの仲間に相談した時、「どうしても人がいないなら私がやるから大丈夫。」この一言と笑顔に力と道標をいただきました。スポンサーの一言「とおるさんなら、できるから」この2つの言葉に支えられました。

そして、自分の前の役割に立候補してくれた仲間がいました。その瞬間のことは頭に焼き付いています。実行委員会を進めていく度に、何度も欠点にぶつかり続けました。議事を進めるときにステップの1、2、3を意識させてもらえました。また、仲間から「批判を受けな

いことは何もしていないこと」という言葉に勇気を頂きました。

当日を迎えるまで、そして当日も多くの仲間に協力(まさにいっしょにやっぺ!)頂きました。夕日が水辺に反射し、ロビーに光が注ぐ中、笑顔の仲間達を見られた時、やって良かったと思いました。今日一日をこれからも!

AA関西サービスフォーラム『サービスの扉を開こう』を終えて 2014/11/1-2

チェアパーソン あつひろ

2012年11月だったと記憶していますが、関西地域委員会構成メンバーと関西セントラルオフィス運営委員会構成メンバーで行われた合同会議の中で、当時の評議員からサービスフォーラムの開催を地域集会和CO(「セントラルオフィス」の略)集会で呼びかけてみては、という提案がありました。どのメンバーからも反対意見は出ず、翌2013年1月の地域集会で代議員に、2月のCO集会でCO委員にサービスフォーラムの開催を検討して欲しいという呼びかけをしました。

地域集会でもCO集会でもサービスフォーラムについて、分かち合いの時間を取ることがあまり出来なかったのが、地域委員会と運営委員会で行っている合同会議で話し合いを続けた結果、サービスフォーラムの開催に関西地域委員会と関西セントラルオフィス運営委員会の合同議案として第19回評議会に提出しました。評議会で勧告決議にならなかった場合でも実行委員会を立ち上げ、関西から全国に向けてメッセージを届けようという話し合いも行いました。

2013年12月にサービスフォーラム実行委員会立ち上げ準備会、翌2014年2月に第1回実行委員会を行い、開催を2014年11月1日(土)・2日(日)、会場を「エル・おおさか(大阪府立労働センター)」に決めて評議会の結果を待ちましたが、残念ながら勧告決議にはなりません。その結果を受け、実行委員会です予算案を立てました、地域委員会財務と運営委員会財務から負担し、そのうえで各グループ・メンバーの皆さんに献金のお願いをすることにしました。不安だらけのスタートでしたが、地域集会では代議員の皆さんが地域委員会財務の修正を、CO集会ではCO委員の皆さんが運営委員会財務の修正を承認してくれました。各グループ・メンバーからも暖かい献金が集まり始め、自分を越えた大きな力が背中を押してくれているような感じを受けました。

実行委員会を重ねる中でプログラムが出来上がりました。テーマは『サービスの扉を開こう』。全体会議で始まり、三つの分科会が同時進行して合計九つの分科会を行い、各分科会の報告を行う全体会議で終わるという内容になりました。最初の全体会議で基調スピーチを三人のメンバーに、テーマは「グループの始まり」「グループの継続」「グループの責任と希望」でお願いすることになりました。そ

の後で「グループの始まり」をメインテーマに、第1分科会(AAメンバーと相談する)・第2分科会(AAを知らせる)・第3分科会(AAに知らせる)を行い、続いて「グループの継続」をメインテーマに、第4分科会(お金がかかる)・第5分科会(役割を担う)・第6分科会(経験を手渡す)で初日は終了。2日目は「グループの責任と希望」をメインテーマに、第7分科会(AAの中でつながる)・第8分科会(AAの外とつながる)・第9分科会(未来のAAとつながる)を行い、最後の全体会議で各分科会のチェアパーソンが行う報告の間にWSM報告を入れるというのが詳細内容です。

当日、会場で来場者に配布する抄録も作成することになりました。実行委員メンバーが各々振分けられた書籍を読んで、各分科会に当てはまると思う箇所を選び、さらに各々選んできた箇所から最適と思われる文章を選びました。各分科会のスピーカーにスピーチ内容の簡単なレジュメを作成してもらい、書籍から選んだ箇所の文章を合わせ、合計32ページの抄録が出来上がりました。

時間が過ぎるのは早くサービスフォーラム当日を迎えました。11月1日(土)・2日(日)両日で180人位の来場者があったと思われます。関西地域評議員の二人が広報担当だったのと、スピーカーを依頼した合計13人のうち11人のメンバーが関西地域以外からの参加ということもあって、関西地域以外からのメンバーの参加が目立ちました。日本中から関西のメンバーとの分かち合いに駆けつけてくれたという感じがして、本当に嬉しかったですし、自然と感謝の気持ちも湧いてきました。

本音を言いますと私自身、2014年末まで関西地域委員会議長という役割も与えられていて、兼ね合いでサービスフォーラムが重く感じることもありましたが、でも終わってみると、多くのメンバーとハイヤーパワーに助けってもらい素晴らしい経験をさせてもらったと思っています。今後サービスフォーラムの開催は関西地域委員会に委ねていくことになりました。何年かのちにまた開催されることを望んでいます。今回はこのような機会を与えていただきありがとうございました。

■ JSOより

AA40周年 卓上日めくり版「今日を新たに」 予定頒布価格 ¥2,000

来年2月に開催される40周年記念集会の初日(2月20日)より、限定1500部の頒布を開始いたします。

従来の「今日を新たに」と内容は同じものですが、卓上型日めくりカレンダースタイルのフレッシュなものとしてお届けいたします。

各グループのミーティング場の中央に、またそれぞれ個人の机の上で毎日の確認など色々な活用が考えられます。

記念集会のお土産にぜひご活用いただきたくお知らせ申し上げます。

編集：ニューズレター編集委員会・発行：NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-1@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休